

ミラクル9

konipon

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

突然死んでしまった主人公は。パワプロの世界に転生する。そしてリトル、中学と実力をつけ名門高校に入学。の筈が手違いで女子高に！プロ入りの道は永遠に閉ざされた……。かに見えたがここから彼、いや彼らの伝説は始まるのだ!!

目次

第一話	奇跡の野球部く序章く	1
第二話	キャラクターメイキングと神様	4
第三話	家族構成く小学校入学前夜	7

第一話 奇跡の野球部く序章く

「ここはどこだ？真っ白な世界が広がる。

「ここは死後の世界よ。」

「誰だ？」

声がして振り返ると頭の上に輪があり、背中に翼をつけた女の子がニコニコして立っていた。

「死後の世界って事は俺死んだのか？」

状況がいまいち飲み込めないので聞いてみる。

「そうよ。貴方は今さっき死んだのよ。覚えていないの？」

覚えていないと言われてもなあ。とりあえず今日の出来事を振り替えてみようか？

「朝、起きて飯食って学校行った。昼間飯食った。」

「ご飯食べてるだけじゃん。」

呆れる天使。

「その後、部活して帰ったんだよ。」

「その帰り道が重要なポイントなのよ。」

帰り道ねえ。何が起きたんだっけ？外人の道案内して迷子の母親探しして、後は???

「その後に公園の前通ったの覚えてない？」公園か、小学生が野球してた様な気がするな。

「そのボールの当たり所が悪くて？」

「ううん、野球は関係ないのよ。」その時公園で遊んでた小さな男の子がボールを追いかけて飛び出して来た。」

思い出した！

「そんな時か。確かその子の前から車が来て、俺助けようとして跳ねられたんだ。」

「男の子は助かったけど貴方は死んでしまったのよ。」

「そうか。そりゃあ仕方ないな。で、俺はこの後どうなるんだ？」

マジでどうなるんだろう。地獄行きかな？様子を見ると女の子はファイルを取り出した。「えーっと。貴方は……？あれ？おか

しいな？何処に有るのよ？」

何か様子が変だな？女の子はファイルをパラパラめくっている。

「これじゃないのかな？こっちはかな？」

次々ファイルを出して調べて行く。

「無いなあ？何でよく。」

涙目になってきた。その時だった。

(残酷な天使のように少年よ神話になれ)

「携帯なってるぞ。」

「この忙しいのに誰よ？はいモシモシ。」

誰と言われて解るかよ。しかし、目の前に積み上げられたファイルを見てため息をつく。

「マジ、俺どうなのよ？」

「ええー!!そんな、本当なんですか？そんなことが、はい、でも、はい、しかし、そうなんですか。いや、任せるって言われましても、どうすれば？自分で考えろ？そんな無責任な。ちよつと、ちよつと、モシモシ？」

何か有ったのか大きな声で携帯で喋っている。あつ、終わったみたいだ。「どうした。何か有ったのか？」

とりあえず聞かないと。

「非常に言いにくいんですけど。」

「何が？」

「今、上層部から連絡がありました、貴方の死亡は手違いだと。」

「何だと!!」

手違いで死んだだと。

「ふぎけるな！何が有ったのか詳しく教えろ。」

「ちよつ、ちよつと待っててください。私も今初めて知ったんですよ。」

確かにかなり慌てていたな。とりあえず、冷静になるか。

「で、何が起きたんだ。」

「実は、本来車は貴方を跳ねずに逆の方へ曲がって、電柱にぶつかるとの運転手は重傷ではあるものの命に別状はない、となるはずだったらしいです。」

「じゃあ、何故俺は死んだ？」

「車を誘導するラインを引き忘れたらしいです。」

「何処の誰だ。俺を殺した奴は！」

「仕返しは無理ですよ。もう消滅させられていますし。」

「何？」

「人間の運命を変えてしまうのは重罪なんです。どんな上の階級の天使でも一つ間違えれば即消滅。それが天界の最重要規則です。」

「わかった。んで、これからどうなるんだ？」

「ラノベや創作小説なら転生って流れだよな？」

「あなたは転生させます。」

「やっぱりな。」

「だったら」

「行き先はこちらで決めます。」

「えっマジ？」

「それでは行ってらっしゃい。またお会いしましょう。」

言い終わると同時に下の空間が消え俺は落ちていった。

第二話 キャラクターメイキングと神様

また、目の前が真っ暗だ。何が起きた？

「もうすぐ、貴方はこの世に生まれます。その前にキャラを作ります。まず、能力数値はどうします？」

能力数値か、オールSでも良いがそれじゃ面白味が無いし、ただ、あの程度はチームの主力として活躍したいしな。

「オールBで良いや。」

「オールBと。次、ポジション、打ち方、投げ方は？」「ポジションは投手兼外野で。打ち方は振り子打法。投げ方はアンダースローで行く。」

「得意球種とストレートの最高球速を決定して。」

「高速スライダー。超スローカーブ。フォーク。球速はMAX160」

「後はどうするの？」

「取得できる能力は全て。」

「学校とかは希望ない？」

「成り行き任せの方が面白いと思う」

だがこの選択が苦難の道の始まりとは知らなかった。

「それでは、これで準備は完了したわね。いよいよ貴方はプロの世界に転生するのよ。頑張ってね。私も陰ながら応援するわ。一流のプロ野球選手目指してファイター！」そう言えば大事な事を聞いてなかった。

「名前を教えてよ。次会うときは名前で呼びたいからさ。」

「なあに？私の事ナンパしてるの？私も罪な女ね。」「あんな、世話になったのは事実だから、せめてもの情けで言っただけ。お前は俺の好みじゃ無いの。可愛いのは認めてやる。けど……」

ジーっと体を見る。

「ヤアだ。何見てるのよ。私のセクシーボディに見・と・れ・た・の？」

調子に乗ってポーズを取りながら近づいて来る。

「決定的な欠点。背が低い上に童顔。端から見ると良くて中学生。」

俺から言わずと小学生何だよ。」

そう、彼女は145cm位の身長しかない。「やっぱり。チビはダメか。まっ良いや」

あれ？意外と立ち直りは早かった。

「エリーで良いわ。これからもサポートしていくから宜しくね♪まあ直ぐあえると思うけどね。」

訳がわからないがまあ良いや。

「俺の名前は？」

「それは産んでくれた両親がつけてくれるものよ。こんな所でつけたって仕方ないでしょ？」

そうだな。産まれて無いのに名前があるのも変だしな。

「ではいよいよ貴方の新しい人生が始まりますよ。目を閉じて下さい。」

目を閉じるとだんだん意識がなくなっていく、深い闇の中へ吸い込まれて行った。??? 「おぎゃー、おぎゃー。」

「おおっ、生まれたか？」

「ええ。元気な双子よ。」

??? 「そうかそうか。よくやった。ようし、俺がお前たちの父さんで勇斗だ。これからずっとヨロシクな♪」

??? 「あなたたつたら。もう少し落ち着いてよ。わたしがあなた達のお母さんの沙都季（さつき）よ。」

勇斗 「母さん、早く名前をつけてやろう。」

沙都季 「もう、お父さんたら。そんなに焦らなくても。」

勇斗 「早く名前前で呼んでやりたいんだよ！」

沙都季 「はいはい。わかりましたよ。じゃあ、お兄ちゃんの方からいきますか。」

勇斗 「我が水樹家の長男だし、我らから一字ずつ取り、漢字を換えてやったらどうかかな？」

沙都季 「良いアイデアですね。では」

さらさらと紙に字をかいてみる。

沙都季 「どうかしら？」

勇を悠に季を希に換えてみた。

勇斗「良いね。最高だよママ。妹の方は俺に任せてくれ。」

沙都季「どんな名前なの？」勇斗「恵魅梨（えみり）だ」

沙都季「いい名前よ。最高だわ」

こうして俺は水樹勇斗と沙都季の長男として双子の妹の恵魅梨と

共にこの世に生を受けた。

果たしてどんな未来が待っているかワクワクするぜ!!

第三話 家族構成く小学校入学前夜

ではここで家族の紹介をしよう。

父 勇斗 職業は警察官 高校・大学とラグビーをしていて身長188cm体重92kgの巨漢。数々の強盗事件や街中の小さな犯罪(引ったくりや万引き等)を解決してきた頼れる街のお巡りさん。街の1日署長で来たお母さんに惚れられて結婚。1男2女を授かる。

母 沙都季 職業は専業主婦 スタイルはB92W59H88
元グラビアアイドル 出した写真集・DVDは直ぐ売り切れ重版される程の超人気アイドルだった。1日署長で訪れた街でボディガードに任命されたお父さんに一目惚れして交際を申し込み結婚に発展。1男2女を授かり、まだ子供が欲しいと思っている。

長女 魅未(みみ)

悠希の4つ歳上の姉 歌うのが好きでよくテレビアニメやドラマの曲をマネして歌っている。実は将来的にはアニメソングの女王と呼ばれる歌手になる。(イメージは名前の魅未Ⅱ33と考えて同じゾロ目の方です)

次女 惠魅梨

双子の妹。お兄ちゃんの事が大好きで車や電車などでは隣に座らせないと泣き出す。勉強はそこそこ。運動神経はかなりのもの。

ジョン シェパード雄3歳 犬を飼いたいと言う勇斗の意見で飼うことになった

シリウス シベリアンハスキー雄1歳 ジョンを飼いに行った時に悠希が一目惚れ。毎日の散歩と餌やり、ブラッシング等を責任持つてやるという条件で飼うことになったペット2号

因みに女性陣は買いたい物を買わせてもらう(文句は言わせない)条件で取り引きした。以上が水樹家のメンバー5人と2頭である。

く月日は流れ、悠希6歳小学校入学前く

沙「いよいよ明日入学式ね。」

勇「早いもんだな。」

魅「2人はどこの小学校だっけ？」

沙「パワフル小学校よ。」

悠・恵「パワフル小学校かく。」

勇「一杯友達を作れよ。そして思いっきり遊べ。」

沙「勉強ももちろんするのよ。」

悠・恵「はい」

魅「そつか。私と違う学校なんだ。少し寂しいけど、お互い頑張ろうね。」

悠・恵「うん。」

両親「さあ早く寝なさい。大事な小学校初日から遅刻なんかしたら最悪の6年間になるよ。」

悠・恵「うん。お休みなさい。」

2人は二階のそれぞれの部屋に入り就寝した。

勇「あいつら大丈夫かなあ？」

沙「大丈夫よ。私達の子供を信じましょうよ。」

魅「大丈夫だって。幼稚園でもたくさん友達いたし弱いものイジメとかもしたことないって言うし心配ないよ」

両親「そうだな。自信を持って行こう。さあ寝るか」

全員「オヤスマミー」

果たしてどんな出会いが彼らを待っているのか？それは……次回を待て！

???'「はじめましてでヤンス。オイラ〇〇でヤンス。よろしくお願ひしますでヤンス。」

彼は一体誰なんだーーーー？